

福岡県結核・感染症発生動向調査解析委員会 週報

週報 令和6年—第27週 (R6. 7. 1~R6. 7. 7)

病 名	定点報告数 (○: 警報レベル □: 注意報レベル)						1定点当たり	
	22週	23週	24週	25週	26週	27週	福岡県	全国
	5/27~	6/3~	6/10~	6/17~	6/24~	7/1~	27週 7/1~	
インフルエンザ	51	48	36	38	61	86	0.43	0.28
新型コロナウイルス感染症	700	816	867	936	1330	2233	11.28	8.07
RSウイルス感染症	231	275	283	357	417	549	4.58	1.61
咽頭結核熱	91	104	99	93	73	50	0.42	0.67
A群溶レン菌咽頭炎	○1012	○1170	○916	○961	○985	○835	○6.96	3.41
感染性胃腸炎	654	801	686	692	576	578	4.82	3.95
水痘	60	28	36	29	23	43	0.36	0.23
手足口病	411	541	○767	○1040	○1123	○1626	○13.55	11.46
伝染性紅斑	2	7	6	3	25	2	0.02	0.10
突発性発しん	63	61	56	46	62	29	0.24	0.30
ヘルパンギーナ	44	72	72	160	208	357	2.98	2.15
流行性耳下腺炎	8	3	13	5	14	7	0.06	0.07
川崎病 (MCLS)	8	5	1	10	4	11	0.06	
マイコプラズマ肺炎	51	63	80	70	69	133	0.67	
細菌性髄膜炎	0	0	2	0	0	0	0.00	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0.00	
急性細菌性髄膜炎	0	0	0	0	1	1	0.01	
急性出血性細菌性髄膜炎	0	0	1	0	0	1	0.04	0.03
流行性角結膜炎	4	9	2	6	6	3	0.12	0.63

月報 令和6年—5月 (R6. 5. 1~R6. 5. 31)

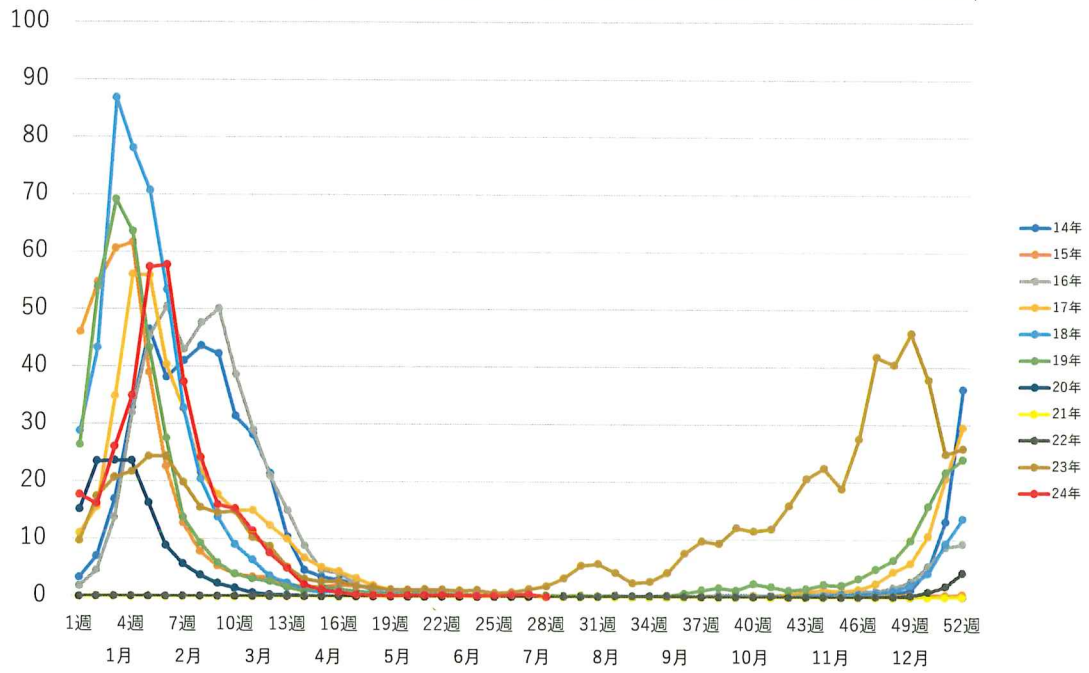
病 名	定点報告数	前月比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
性器クラミジア感染症	142	135%	福岡61、北九州41	3.84	2.58
性器ヘルペス	53	96%	福岡30、北九州11	1.43	0.86
尖圭コンジローマ	30	±0	福岡18、北九州8	0.81	0.62
淋菌感染症	56	147%	福岡32、北九州11	1.51	0.76

■ 総 評

▽ 2024年第27週: R6. 7/1-7/7は新型コロナウイルス感染症が8週連続増加し今後の動向に注意が必要。インフルエンザ前週・今週と増加だが定点当たり0.43と少なく、キットではA型17人、B型1人。RSウイルス感染症は増加傾向が続き今後の流行に注意。A群溶レン菌咽頭炎も多発が続き、警報レベルの報告数が続く。手足口病も毎週増加し第24週から警報レベル、ヘルパンギーナも連続増加中で今後注意。マイコプラズマ肺炎も多発が続き今後の動向に注意。ヒトメタニューモは少なくなった。

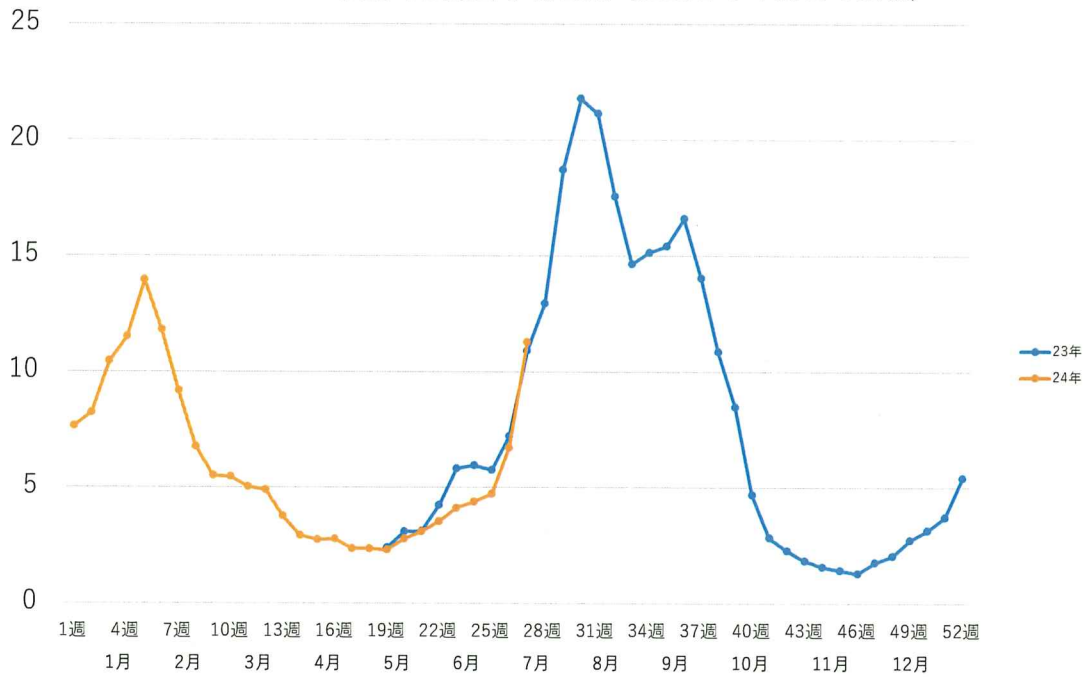
(人/定点)

インフルエンザ 疾病毎定点当たり報告数（過去10年間との比較）

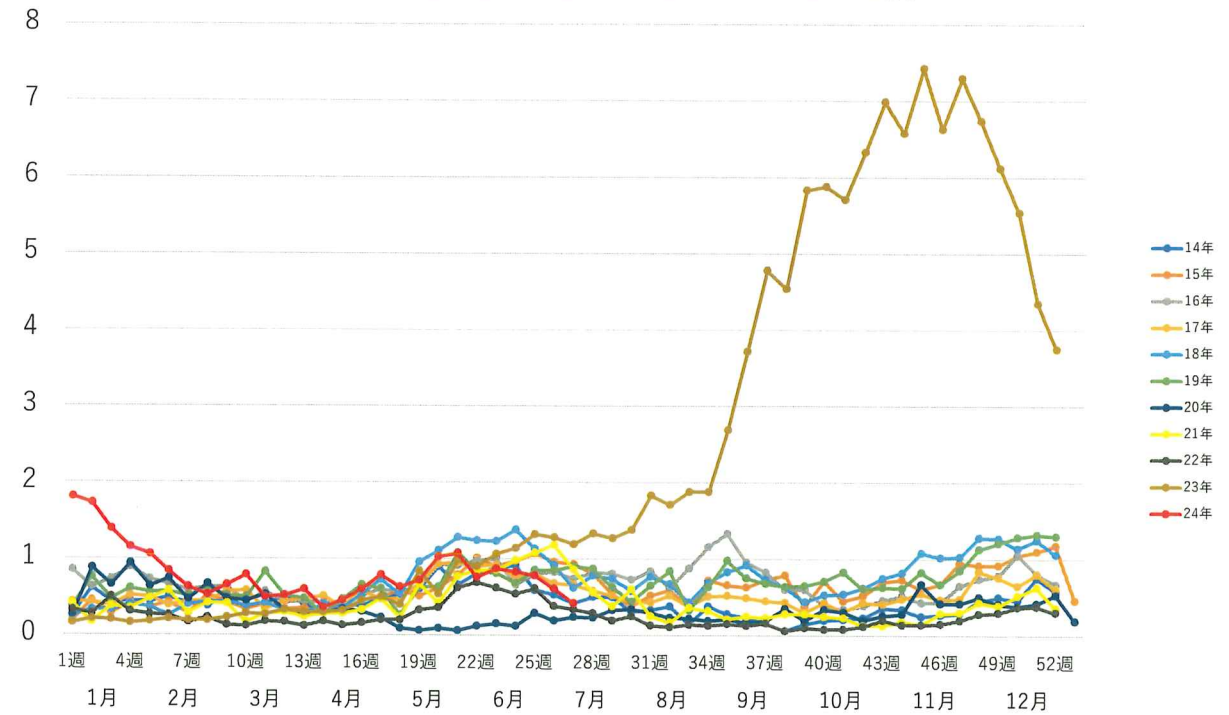


(人/定点)

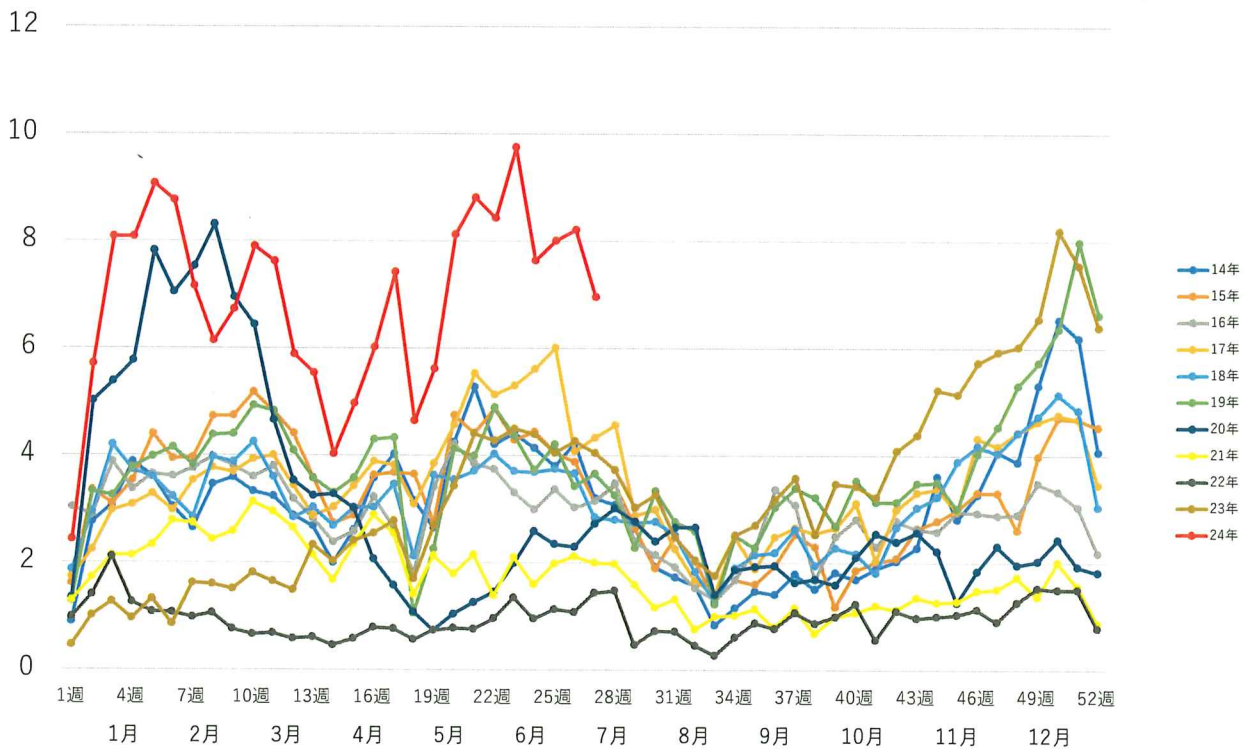
COVID-19 疾病毎定点当たり報告数（過去10年間との比較）



(人/定点) 咽頭結膜熱 疾病毎定点当り報告数 (過去10年間との比較)

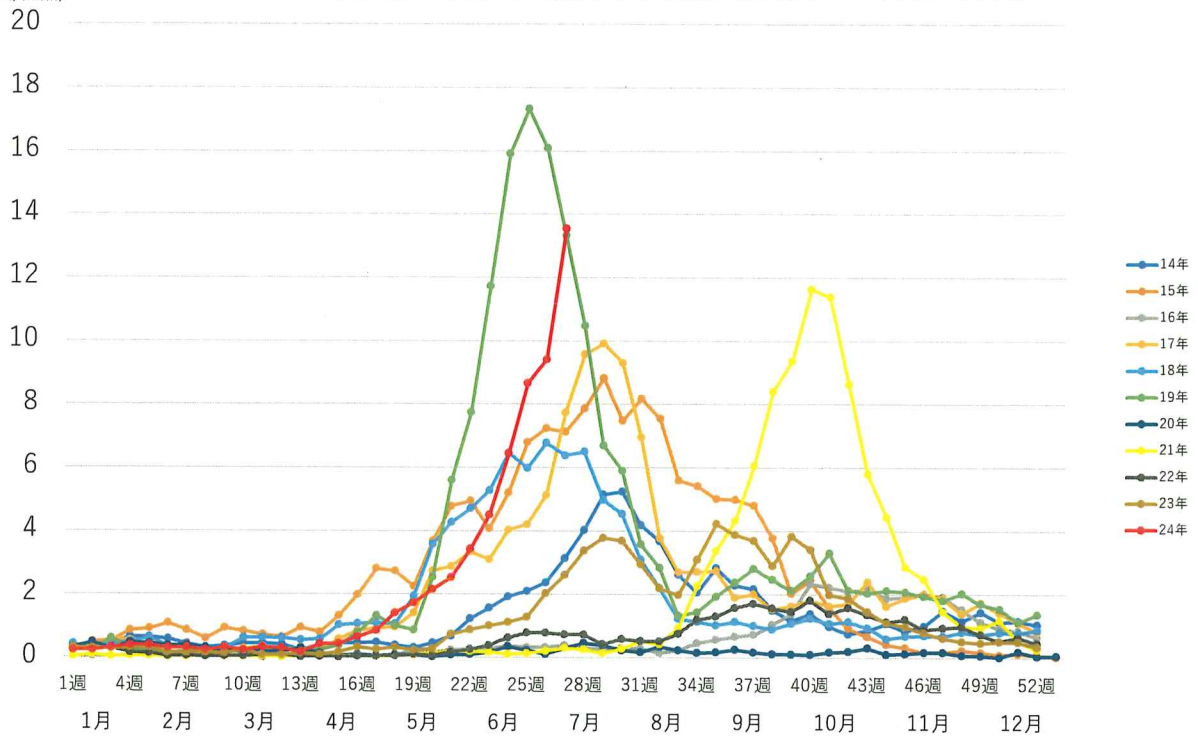


(人/定点) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 疾病毎定点当り報告数 (過去10年間との比較)



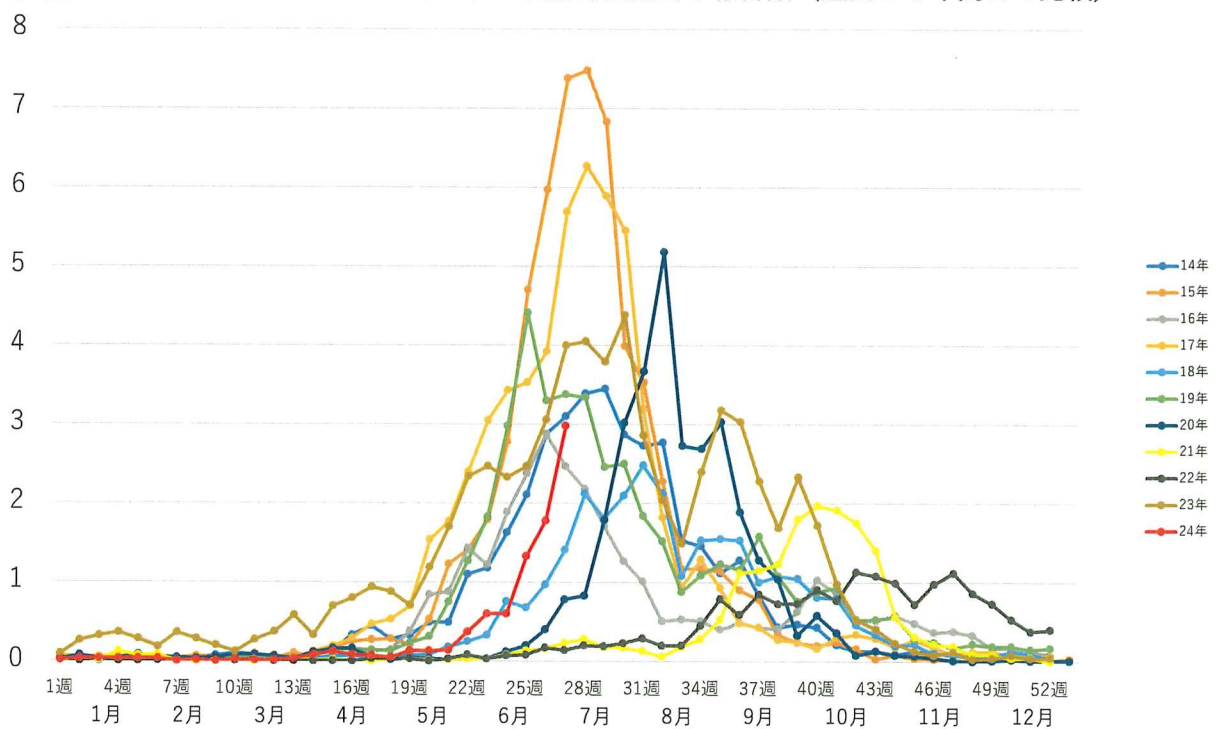
(人/定点)

手足口病 疾病毎定点当たり報告数 (過去10年間との比較)



(人/定点)

ヘルパンギーナ 疾病毎定点当たり報告数 (過去10年間との比較)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

福岡県医師会

1

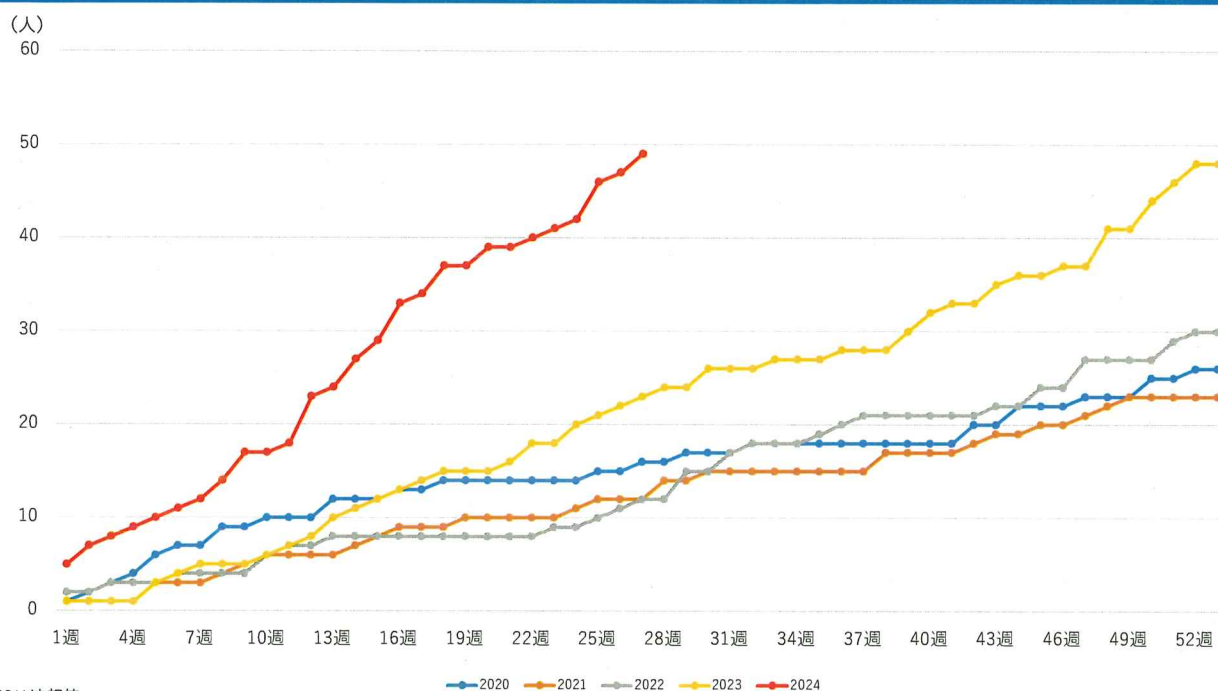
劇症型溶血性レンサ球菌感染症
(streptococcal toxic shock syndrome:STSS) とは

溶血性レンサ球菌（いわゆる溶連菌）には、多くの種類があり、一般的には急性咽頭炎（のどの風邪）などを引き起こす細菌として知られていますが、まれに引き起こされることがある重篤な病状として、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）が知られています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症し、敗血症などの重篤な症状を引き起こし急速に多臓器不全が進行することがある重症感染症であり、その**死亡率は約30%**とされていますが、重症化するメカニズムはまだ解明されていません。

2

福岡県全数報告 累積推移（過去5年間との比較）2020-2024年
劇症型溶血性レンサ球菌感染症



※2022、2023は速報値
※2024はR6/7/7時点の報告数

3

主な症状

○初発症状

- ・咽頭痛
- ・発熱
- ・消化管症状（食欲不振、吐き気、嘔吐、下痢）
- ・全身倦怠感
- ・低血圧などの敗血症症状
- ・筋痛

○後発症状

- ・軟部組織病変
- ・循環不全
- ・呼吸不全
- ・播種性血管内凝固症候群（DIC）
- ・肝腎不全などの多臓器不全

4

感染経路

通常無菌の部位（血液、胸膜、脳脊髄液など）に溶血性レンサ球菌（A群、B群、G群等）の毒素産生株が感染することで発症しますが、はっきりした原因が不明な場合が多いとされております。

5

治療

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、症状が急激に進行するため迅速な診断と早期の治療が大切です。

治療では、ペニシリン系抗菌薬と呼ばれる抗菌薬が第一選択薬であり、使用される抗菌薬自体は一般的に使用されるものです。

しかし、**抗菌薬による治療のみでは改善が困難な場合が多く、緊急手術による広範囲の壊死（えし）した病巣（びょうそう）の除去や集中治療室での全身状態の管理を要する場合があります。**

6

予防のポイント

- 手指衛生や咳エチケット
- 傷口の清潔な処置
 - **基本的な感染防止対策**が有効

傷口の発赤や腫脹、痛み、発熱など、感染の兆候が見られた場合には、**直ちに医療機関を受診**して下さい。